

## 「国語の作問力養成講座」紹介（教科教育チーム国語科）

### はじめに

本講座は、中学校・高等学校の国語科の教員を対象に毎年8月末に実施してきました。昨年は、郡山にある福島県養護教育センターを会場に1日で行いましたが、研修内容の充実を目指し、本年度は再び福島県教育センターで1泊2日の日程で実施しました。

### 1 講座のねらい

問題を作り生徒の学習状況を評価するねらいは、3年間の学習指導計画に従って、各学年・時期ごとに生徒が学ぶ内容とその定着、さらには身に付けたことの活用などを確認することにあります。

そのためには、教員が国語に関する深い造詣と知識を持っていること、教材を十分に分析し、生徒に何を教えるかを明確にした授業の実践が求められます。その上で、達成度を確認するために考査が行われます。

教員は、考査を実施し、生徒の学力を評価（点数化）して終わりということではありません。考査によって、生徒の優れた点や向上面、また、弱点や未定着の部分等が分析されなくてはなりません。その分析結果をもとに、生徒の学力向上のためにどのような手立てを取らなければならないかをはっきりさせ、授業の改善や指導の工夫が図られることが大切です（指導と評価の一体化）。

本講座は、以上の点を重視して、それを実現できる評価問題の作成をねらいとして、中学校・高等学校の国語科教員の合同参加の形で実施しました。

### 2 講座の内容

#### （1）課題の作成

07年東京都の国語入試問題の文学的教材問題（光野 桃「背中」）を素材とし、事前に「素材文」と「設問」について各研修者の考察を提出していただきました。

#### （2）研修の流れ（作問の意義の理解、班ごとの課題の再検討、問題の作成）

研修者には、自分の作成した課題を印刷して持参していただきました。1日目は、文学的教材の教材研究とその指導、評価問題作成上のポイントについて資料を使って確認した後、班に分かれ、内部検討で素材文と設問に関する討議を行い教材理解を深めました。また、研修者が自作設問を発表し相互に講評し合うことで、作問の可能性を広げるようにしました。

以上の過程を経て、各班内で新たに評価問題を練り直しました。2日目に各班内で完成させた評価問題を発表し、相互に講評を行ってさらに研修を深めました。

講座の最後には、日本言語技術教育学会長の市毛勝雄先生をお招きし、「論理

的思考力を高める国語科の指導(中・高)」という題で講演を頂きました。

聴講の先生方を含め多数の出席者があり、大変好評でした。

### (3) 研修を振り返って

最初に持参された自作問題は、

発問の意図や表現があいまいで、意味が伝わりにくいもの

選択肢の文言が十分に練られておらず、本文を読まなくても解答できるもの

同じような発問形式の問題が多く、生徒の力を多角的に判断できないもの

模範解答が十分練られておらず、生徒に納得のいく説明ができないもの

本文の流れから逸脱し、作品の主題にかかわらないもの

など、改善されるべき要素が多くありました。しかし、2日間の研修を経て多くの目を通り練り上げられることで改善され、各班の問題は大きく変わっていきましました。また、そうした過程で、各先生方が、自作してきた設問の良い点、悪い点に気付き、個人の作問の改善にもつながりました。

参加者の中にはPISA型読解力の育成を意識した意欲的な作問や、作品の主題を問うための設問の流れが工夫されたものもあり、作問力の高さがうかがえました。

### 3 次年度に向けて

#### 授業との連動

今回の講座ではできなかった、作問と連動した授業の実践を課題としたいと考えています。授業と作問は連動しており(指導と評価の一体化)表裏一体のものです。次年度の「論理的文章の評価問題作成」には、作問と連動した指導案作成や模擬授業の実施も視野に入れ、講座を考えていきたいと思っています。